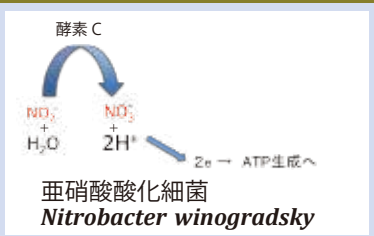
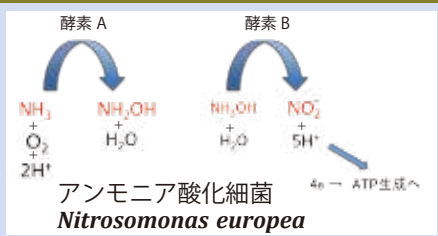
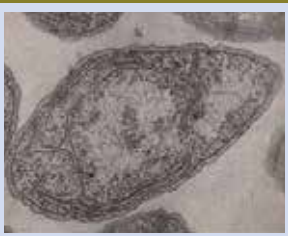




Vol. 3

無料
申込不要

もっと知りたい！ 微生物による塩硝生成のメカニズム



日時 | 平成 28 年 11 月 26 日 (土) 14:00 ~ 15:20

会場 | 金沢大学五箇山セミナーハウス (助市) (富山県南砺市相倉 126-1)

講師 | 福森 義宏 (金沢大学 社会貢献担当理事)

塩硝とは？



一般的には「煙硝」と表記し、硝石・硝酸カリウムの古い呼び名です。加賀藩では「塩硝」の字を使っていました。かつて、火縄銃などで使用する火薬の原料として使用されました。

概要

五箇山地区は、「塩硝 (えんしょう)」の一大産地であり、その質・量ともに国内随一を誇るものだったといわれています。五箇山の塩硝、立山の硫黄を原料として、加賀藩は火薬製造法の研究や火薬の製造、さらには大砲の製造を秘密裡に行いました。この塩硝づくりは、加賀藩の直轄事業として、16 世紀半ばから明治の時代まで、300 年以上も続いたといわれています。また、石山合戦では、本願寺勢力に五箇山の塩硝が供給されたことが伝承されています。

この講座では、塩硝が土の中でどのようにして生成されていたのか、微生物による「酵素」の働きとそのメカニズムについて、微生物学の視点からわかりやすくお話しします。



このセミナーはインターネット上で、同時配信を実施します。詳しくはウェブサイトへ

金沢大学地域連携推進センター

検索

スマートフォン、タブレットはこちらから →



<お問合せ>

金沢大学地域連携推進センター Tel 076-264-5272.5273 E-mail kaihou@adm.kanazawa-u.ac.jp

